

キュウリ・観察日誌 (かんさつにっし) ③ 【4年生】

桐朋学園小学校・生活科

4年生のみなさんには、これまで『生活科だより』で、「キュウリの話・植え付け」「観察日誌①・②」をお届けしてきました。おたより、読んでくれたかな？

さて今回も、キュウリがすくすくと成長しているようすを「観察日誌③」として届けたいと思います。ぜひ、今回もみなさんに読んでもらい、キュウリの成長を身近に感じてもらえるとうれしいです。

1. 「^{せいし}整枝 (^{てきしん}摘芯)」について

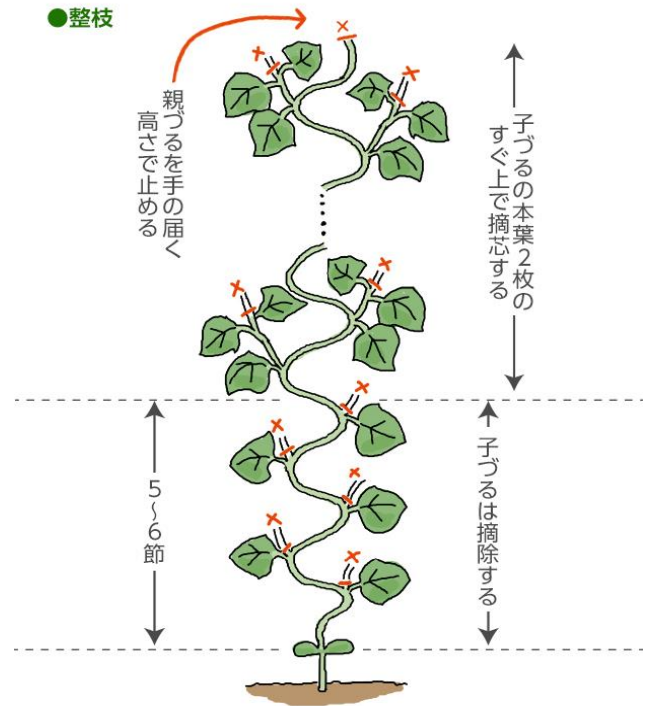
キュウリは放っておいてもある程度実はなりますが、成長すると枝が次々と出てくるので、放っておくわけにはいきません。枝がこみ合ったり、葉が重なったりすると、病気が出やすくなり、あまり実りません。

そうならないよう、「整枝」を行います。字の意味からとらえると、「枝(えだ)を整える(ととのえる)」ということになります。

では、どのように整えるかということ、右図のように、「親づる」からどんどん分かれていく「子づる」のことを「子づる」といい、余分な子づるを切り取ります。この作業のことを「摘芯」といいます。

せっかく成長してくれたものを切ってしまうなんてかわいそうな気もしますが、元気に成長し、大きな実をつけてくれるためには、必要な作業なのです。

5月25日(月)に、かんたんな摘芯を行いました。下の写真は、そのときのようすです。



2. キュウリの様子 …「観察アルバム」から

『観察日誌①・②』では、同じものを、同じ場所から撮影する「定点観察」の形で、キュウリの様子を紹介してきましたが、今回からは、「アルバム形式」で紹介をしていきたいと思います。

今回は、5月28日（木）に撮影したキュウリの写真をアルバム形式にしたいと思います。苗を畑に植え付けをしたのが、4月25日（土）でした。1か月がたち、成長の変化はどうでしょうか…？

全体の様子だけでなく、細かい部分も撮影したので、よく見て、成長を実感してもらえたら、と思います。



これまでの「定点観察」からのアングルです。



畝と畝の間にも、葉やつるがのびてきています。



新緑の緑と花の黄色のコントラストがきれいです。



葉っぱの写真です。手のひらほどの大きさです。



花の写真です。なんだか南国に来た気分になります。



雌花（めばな）の先です、キュウリの赤ちゃんがいます。



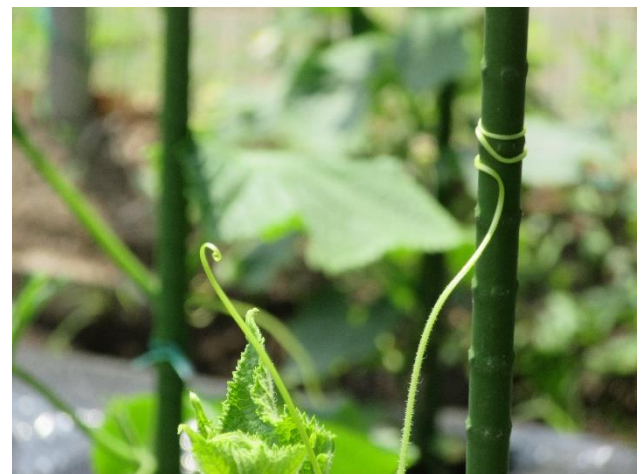
花・つぼみ・茎(くき)が一体となった写真です。



茎に注目すると、ひげのようなものが生えていますね。



「つる」が支柱にまきついています。がんばれ！



「つる」がまるで、キュウリの手のように見えます。



クルクルうずを巻きながら支柱をさがしたのかな…？



面白くなって、「つる」の写真をたくさんとりました。

《まめ知識》 キュウリの花言葉は、『洒落(しゃれ)』

上の写真をみても分かるように、キュウリの花は、黄色い花弁(かべん)が5枚集まって咲くかわいい花です。そんなキュウリにつけられた花言葉は、『洒落(しゃれ)』です。この言葉は、垢ぬけている様子や、気の利いていることを表しています。

流行りの垢ぬけた服を着ている人は「お洒落」で、相手の気分を良くする気の利いた言葉は「洒落」といいます。

キュウリの実のウリ特有の甘い香りと、花から漂う甘い香りの違いが、洒落ているように感じられ、この言葉になったのかもしれませんが。

※ 花言葉の由来には諸説あるようです。